

## 行きつけの理髪店

ほぼ1ヵ月に1回、東山の理髪店に行く。もう通い始めて30数年になる。名古屋でなんとか就職が決まり、「新池ビル」という賃貸アパートに住むことになった。

散髪のため床屋さん(昔はこう呼んでいた。今もついこう呼んでしまう)に行こうと、東山駅近くの店に入った。あまり馴染めないこともあり、次に本山の方に足を伸ばすと、感じの良さそうな店があった。この店が30数年にわたって通い続けている行きつけの理髪店である。

近くに店が移ってから、かなり年月が経つ。写真のように「と●あるHAIR」という看板が懸った、なかなか洒落た感じの店である。昔の床屋さんのイメージとは違っているので、最初は戸惑ったこともある。

外観だけでなく、店のなかもシンプルながら、なんだか落ち着く雰囲気であり、心をなごませてくれる。横のシャンプー台は、使うときだけ引き出すようになっている。散髪の際は、椅子に座って、前の鏡をじっと見つめることになる。鏡台横などには、いつも綺麗な花が飾ってあり、季節感を味わえる。

心をなごませるのは、落ち着いた雰囲気や花だけではない。店のご主人と奥さん(どのお呼びしてよいか迷うが)との会話である。昔から床屋さんとは仲がよかった。椅子に座って、黙って頭を刈ってもらうのがいやで、よく喋った。ふだんは積極的に喋らないのに、床屋さんでは違っていた。馴染みの床屋さんであり、たぶん鏡の前だからであろう。

話す話題は次々と出てくる。政治経済から地域、ホットな話題や家族のことなど、その日の状況により変わる。ご主人は私と違い「趣味人」であり、写真とか山歩きなどの話題がじつに豊富だ。知らない情報や知識をどれだけ仕入れることができたことか。「床屋談義」なる言葉があるが、私にとって行きつけの「とある床屋さん」での会話のことかもしれない。



(2015年2月18日)